

平成27年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成		
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成		
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成		
2 今年度の重点目標	1 キャリア教育の充実	3 特別支援教育の推進	5 生涯学習講座の運営
	2 人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実	4 危機管理体制の整備	
3 昨年度の成果と課題	1 進路決定率は定通とも目標を達成したが、今年度も継続してキャリア教育の充実を図り、質的な向上も含めて目標の達成を図る。		
	2 出席率や読書活動を除くとほぼ目標は達成されているが、目標を達成するために必要な取組、組織的な対応などに注目した評価を行う。		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の導入と活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	多部制単位制高校の特性を生かし、多様な生徒に対応するため、新規事業に定時制・通信制合同で取り組んだ。校内倫理委員会を計画どおり開催し、信頼される学校づくりに努めた。	学校評価システムを有効に活用し、課題の分析を行い、適切な教育目標設定について検討するなど、その具現化のために組織的な学校運営となるよう努める。	B	○開かれた学校づくりとともに、HPの活用などで学校の良さや特徴等の見せ方にひと工夫が必要である。 ○数値目標を達成させることが目的にならないように、柔軟な考え方も必要である。 ○多様なニーズや課題に対応し、生徒の満足度をどう上げていくか、さらに取り組みを進めてもらいたい。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通じた学習意欲の喚起	B	授業評価（2回）・シラバス改訂、考査前質問会、多様な形態での研究授業等を実施した。面談等を通じての学習意欲喚起により、単位修得率が向上した。	授業評価のよりよい実施方法を検討するとともに、研究授業のテーマ設定・実施期間を工夫し、授業改善と生徒の学ぶ意欲向上を目指す。単位修得率向上のための更なる取組を行う。	B	○分かりやすい授業を通して、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにしてもらいたい。また空き時間の有効活用ができるよう工夫してほしい。 ○生徒の中には、基礎学力について不安を抱えている者もいるので、個々に対応した取り組みを望む。
生徒指導	・人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実 ・いじめ防止の取組の充実	・HR活動や行事を通じた自己有用感と他人を思いやる心の育成 ・本校らしい、いじめ防止の取組の実行	B	生活規律指導の適切さは、定時86%、通信92%と肯定的である。学期に1度（通信制は年に2回）アンケートを実施し、いじめの実態把握と防止に努めた。	新入生が落ち着くまでの指導に課題がある。日頃より、在り方生き方を考えるための活動を充実させる。また、部活動や生徒会活動が充実したものになるよう工夫する。	B	○夏休みの募金活動をもとに、福島県での「桜の植樹ボランティア」を行ったことは本当に素晴らしい。子供たちの自発行動が育つような様々な活動を期待する。 ○学年を越えた交流が減少する中、自分の良さに気づき、自分の生き方を見つけれられるよう多様な生き方を知る機会をぜひ学校で設けてほしい。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・社会的自立に向けた健全な職業観・勤労観の育成 ・卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	定時制進路決定率が79.2%と昨年より3.3%上昇した。進路ガイダンス、CSプロジェクトがキャリア教育を充実させ、就職・進学者の内定・合格や教員の研修に繋がった。	CSプロジェクトを組織として計画的に推進し、担任との連絡を密に取りながら、キャリア教育及び学習支援を充実する。	B	○様々な事業を通して進路に対する生徒の意識が高まり、進路決定率が向上したことは大変良いことである。 ○多様な働き方の選択等、指導の幅を広げてもらいたい。 ○保護者にも早い段階から進路について考える機会を設けるなど、進路についての情報提供の場を増やしてほしい。
健康安全指導	・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの点検 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	B	障がい者用の避難器具を準備できた。危機管理マニュアルの改訂及び訓練・研修を予定通り実施できた。	さまざまな障がい等を持つ生徒への適切な対応のため、医療機関等の外部機関との連携をさらに強化していく。	B	○高層ビルの中にある学校なので災害時の避難などに不安があったが、防災訓練や不審者対策等に力を入れていることがよく分かった。 ○危機管理は日頃の意識が最も重要なので、マニュアルの点検とともに、訓練・研修の一層の充実を図ってほしい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・HPを利用したの情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	各種「通信」に加え、HPも活用しながら、生徒たちの活躍や学校の現況を発信できた。生涯学習講座の受講者数が生徒・一般共にやや減少したが、一部講座では増加も見られた。	HPのトップページをより見やすくアクセスしやすいものに改訂し、学校のタイムリーな情報発信に努める。また、生涯学習講座の内容見直しを引き続き行っていく。	B	○各種「通信」の定期的な発行を通じて情報発信を行っている。見る側にとってHPや通信は見やすいのがベストであり、必要に応じて改善することが重要。 ○生涯学習講座の良さを広く知ってほしい。今後、紙媒体の情報発信のほか、HPの充実とやマスコミの活用など地域に対し積極的に発信してもらいたい。
特別支援教育	・特別支援教育の推進	・配慮の必要な生徒への指導体制確立 ・個別支援チームの結成	B	配慮の必要な生徒に対しては、個別の支援チームを組み、情報共有しながら、組織的に対応することができた。Ⅱ部ライフスキル講座を新たに実施した。	職員研修会の実施等を通じ、個々の生徒のニーズに対応するためのさまざまな知識の習得・スキルの更なる向上を図る。	B	○配慮が必要な生徒に対しての取り組みに熱意を感じる。 ○生徒一人ひとりの共通理解に基づき必要に応じた支援が効果的にできている。今後も継続的に取り組んでほしい。 ○外部機関や外部人材（スクールカウンセラー等）との連携をさらに深め、メンタルヘルス面を含めて充実した支援を行ってほしい。